



### 三森一家に貧しい

### 家庭の娘達が同情

### 玄關に投げ込んだ包み物

### 更らに本社の手を経て

### 町役場に寄贈

昨今人心の頹廢を歎かると、折柄、また純情の少女達が薄幸の一家に光明を興へ更生への躍進に導びいたといふ感激の美談——去る十九日の夕刻平町三丁目三森虎雄氏の宅を訪ねた

十四五才の未知の少女が秘かに同家の玄關に包物を置いて去つたのを翌日になつて家人が発見、何気なくその包を開けてみると、此の些少な金品を今はなき貴家のお祖父さまと奥さまの靈前にお供へ下さいといふ手紙を添へて五合の豆及び一合の白米と並に一錢、五錢、十錢の銅貨とりま

六十七錢の金が入れてあつたので三森氏一家はこの未知の少女達の優しい心根に打たれ感激の涙もあつく贈られた供物を靈前に供へて無言のうち一家の更生を靈前に誓つたといふ手紙の全文(原文のまゝ)

私共の團體は二十人足らずの少集團で皆貧しい家庭の娘達です、先頃の御宅様の御不幸の事を御伺ひ致しまして、私共の身

に應じて集めましたもの、餘り僅かばかりでお恥かしい様ですが、私共の意をお汲み取り下さいまして、何卒お叱りなく今なきお祖父さま、奥様の御靈前にお供ひ願ひます、御不幸が變じて幸ひとなられん事を皆々御祈り致して居ります。

尚ほ三森虎雄氏は右に就き感動に心打たれつゝ語る世相滔々輕薄に流れ頹廢地を拂はんとするの時から

とて右の金品を本社に依頼し來つたので本社に直ちに平町役場にその配給方を委嘱した

### 磐中野球部

### 新陣容成る

### 現役七名の卒業を前に

### 新人を擁して覇權に邁進

磐中野球部では来る三月田中、杉浦、石坂、金成久、金成金、萩野、小井戸の七選手が卒業するので過般來新陣容を整ふべく人選中であつたが此程メンバーを左の如く決定近く練習を開始し來る大會に備へる事になつた

### 草野(右翼)一年高羽

### 磐中武道納會

去る十三日より寒稽古を開始した磐中武道部では来る三十日午前九時より同校講堂に於て納會を催すが當日は午前中各クラス對抗試合を行ひ午後一時よりは磐炭古河、平商の各武道部を迎へ一戦を試みると

### 所得稅調査委員

### 競争激甚の見込

### 定員七名に對して

### 立候補二倍以上の模様

平稅務署管内郡下町村所得稅調査委員選舉は来る十月下旬平稅務署に於て執行されるが定員七名に對し立候補は大體二倍以上の見込で早くも暗中飛躍をなしてゐる向もあるらしく競争激甚を極めるものと豫想され

### 愛林思想の普及に努める

### 普及に努める

### 林野保護組合の協議

既報石城林野保護組合では本廿二日午前十時より平署會議室に於いて組合長會議を開き組員の表彰、愛林運動參加等に就いて協議を行つたが同會では四月二、三、四の三日間行はれる全國愛

### 滞納競賣

### 平町の處分

平町役場では年度末が近づいたので滞納整理をする事となり七年度町稅滞納三百五十名、三千餘圓に對し財産を差押へたが三十、三十一の兩日競賣處分に付する

### 水道豫算

### 編成協議

平町では本廿二日午前十時より役場内町長室で水道委員會を召集九年度豫算編成に就いて協議した

### 湯本水道

### 給水擴張

湯本町では上水道の完成を見たが同町關船及び水野谷部落には未だ給水設備がないので明年度豫算に關船七十戸、水野谷六十戸に給水する案を立て目下設計及び布設費の調査中

### 愛谷江も

### 議員改選

### 早くも運動

愛谷江堰水利組合では来る廿八日午前九時より團體事務所樓上で幹部役員七名の改選を行ふが十餘名の候補者が早くも運動して居ると

### 感冒流行

### 行軍延期

既報明日行ふ筈であつた第一小學校全校兒童の町

一周耐寒行軍は感冒流行の折柄延期する事になつた

### 國史研究出席

平町各小學校歴史科擔任指導は来る二十七、二十八の兩日本縣女子師範學校に於て開かれる縣下小學校教員國史教育研究會に出席すると

### 産組聯合會長

### 水野氏就任

石城郡産業組合聯合會では一昨日マルトモホールで總會を開き聯合會長青沼裕太郎氏辭任するにつき後任水野三郎氏に決定

### 平町人事

### 回出生

△播穂小路四 當時郡山市 隆田猪狩隆男氏長男隆壽  
△五丁目二六 當時東京市 江戸川區東小松川町二ノ三八二七春日朝雄氏二女 啓子  
△鎌田四 鈴木鐵三氏七男 武士  
△鎌田四六 入江淳一郎氏 三女泰子  
△鎌田三一 當時湯本町 宇諏訪ヶ崎四二佐藤金吾氏二男義則

### 長唄

### 花柳流

### 舞踊

### 行軍延期

### 感冒流行

御稽古な おすゝめ 致します 花柳流 研究 所 花柳徳三郎 杵屋十茂代 平町七二 田町七二

# 無免許齒科醫に

## 多額の金を強請

### 悶著中に平署が探知

小名濱町本町七〇齒科醫院  
中野政治氏方醫師宮城縣登  
米郡佐沼町生れ木村仁(三)  
は日本齒科醫專を  
卒業し 昨年八月より  
前記中野方に雇れ中治療代  
六十圓を横領した外同町の  
井上辰雄が無免許で開業し

て居るのを知り同人を脅喝  
して多額の金圓を出す事を  
承諾せしめたが同町新米旅  
館で會食した費用を出した  
のみなので

兩者間 争を生じて居  
るのを此程平署に探知され  
關係者一同取調中

# 坑内に

## 八十四時間

### 坑夫發掘さる

既報好間村字小館古川炭礦  
坑夫金成勇(一)は去る十七  
日坑内作業中落盤の爲坑道  
を閉ざされ坑内奥深く逃込  
んだので一方救援隊は極力  
發掘作業中の處四日を経た

二十日の夜九日に至り遂に  
救助する事が出来た坑内に  
八十四時間も長く生きてい  
たことは實に奇蹟とされて  
ゐる

# 職業戦線に

## 起つ小闘士

### 平町に二十九名

平町各小學校では来る三月  
卒業する尋常科六年及び高  
等科の児童に對し卒業後の  
志望を調査したが大部分は  
上級學校進學志望で卒業後

直ちに就職する児童は左の  
如く三校を通じ二十九名で  
あると

(第一)洋服裁縫見習一  
(第二)看護婦見習二 局

交換手一 店員三 結  
髪業見習一 女工一  
(第三男)指物大工二 鐵  
工見習二 ベンキ職工一  
店員一 理髮業見習一  
(同女)行儀見習一 理髮  
業見習一 ミシン見習一

### 青沼町長表彰

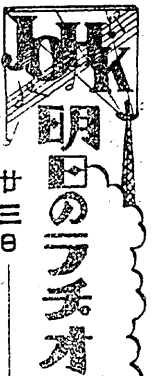
青沼  
町長は此程一家三名の赤  
十字社員を有し且つ同社の  
事業に盡力した功に依つて  
本日日本赤十字社福島支部  
長畑山知事より表彰状を贈  
られた

# 橋上の亂闘

## あはや火の雨

### 平署員が駆付けて鎮撫

夏井村大字下大越字畑田土  
工夫星野喜一(三)及び草野  
村大字下神谷字城四家一  
(三)外二名は昨廿一日午後  
四時頃鎌田橋を通行中前方  
より通り合した神谷村字中  
七木村直好(三)平窪村字糸  
作松崎貴一(三)神谷村字砂  
間金成周助(三)の三名に喧  
嘩を吹っかけ橋上の亂闘と  
ならんとしたのを附近の者  
の急報で平署員が駆けつけ一  
同を本署に引致取調の上星  
野、四家の兩名を檢束した



今晚も明日も北西  
の風晴曇半す

### 今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間)  
ラジオスケッチ「お五月  
會」H K子供會
- 後六、二五 英語講座  
若杉 三郎
- 後七、三〇 講演「二月十  
四日の日食に就て」東北  
帝大助教授 松隈 健彦
- 後八、〇〇 新内「戀娘昔  
八丈」(城木屋の段)  
富士松賀太夫外
- 後八、三〇 哥澤  
哥澤芝勢以
- 後八、四〇 大衆物語 人  
情奇談「犬遣ひ佐平次」第  
一回 栗島 狭衣
- 後九、三〇 時報 ニュー  
ス 氣象通報 番組豫告

### 校旗新調

平第二小學校では校旗を近  
く新調する事になり目下職  
員中より圖案を募集し撰擇  
中であるが豫算は百圓内外  
である

# 知らぬ間に隠居

## 驚いて養子相手に

### 訴訟沙汰に及ぶ

平町搔植小路一二伊庭サイ  
(七)は此程安藤辯護士を代  
理人とし目下茨城縣土浦町  
字立田二四二に  
居住する 養子銀行員  
伊庭修(三)を相手取隠居無  
効の訴を平支部に提起した  
ので去る二十日午後一時よ  
り中島判事係り關口、香西  
兩判事陪席、原告代理安藤  
被告代理人真木  
兩辯護士 列席の下に  
口頭辯論開廷、證人喚問、其  
他種々取調へ判決言渡は來  
る二十六日となつたが、事  
件の内容は原告サイは大正  
十三年六月戸主であつた孫  
顯が死亡した所から同年七  
月十四日列記被告を養子に  
したが  
此程家事 の都合に依

り財産を整理しやうとした  
所何時の間にか隠居された  
上財産全部が被告の名義に  
なつて居るのを發見驚いて  
訴訟に及んだもので原告の  
主張に依れば  
養子縁組 の届出を行  
ふ際盜に原告の印鑑を使用  
し隠居の届出をし財産全部  
を自己の名義にしたもので  
本人の承諾ないものは無効  
だといふにある

### 矢野校長

## 夫人逝く

平町胡摩澤平商業學校々長  
矢野泰次郎氏令閨操夫人は  
風邪に冒され産後の肥立ち  
悪く手厚い看護の甲斐もな  
く昨二十一日午後二時遂に  
逝去された、行年四十歳、  
矢野氏との間に二男二女あ  
り、内助の功多く傍ら子女  
の教養に力を盡し眞に良妻  
賢母の譽高くその死を惜ま

### 星野氏病む

## 容體氣遣はる

平町五丁目信用組合平庶民  
金庫事務理事星野清吉氏は  
舊臘利句以來胃を患ひ以來  
専心療養中であつたが數日  
來より腎臟炎を併發病體惡  
化し家族一同枕頭に詰さり  
看護に努めてゐるが容體を

### 明日の部

- 前七、〇〇 基礎獨語講座  
(七) 橋本 忠夫
- 前九、一〇 料理献立  
前二〇、三〇 婦人講座  
「日本婦人の覺悟」東京家  
政學院長 大江壽美子
- 後〇、〇五 謡曲「雲井の  
舞」 善多 實外
- 後二、〇〇 婦人講座  
「日本畫のかき方」(一)  
望月 春江
- 後五、〇〇 東北民俗行事  
講座(第十五講)立春前後  
の行事と祭事||永沼一馬
- 後五、三五 受験講座「和  
告別式を執行する筈  
氣遣はれてゐる

### 平郷業紹介所報告

## 回人を求める方

- △女中 二十前後 月七圓
- 外面談
- △出前持 二十迄 尋卒
- 月五圓
- △女中 二十前 尋卒 月
- 五圓 勤先東京
- △洋服徒弟 十六才 尋卒
- 外面談
- 回職を求める方
- △自動車運轉手 二十五才
- 中四修 給料面談
- △機械職工 二十四才 委
- 細面談
- △土工夫 五十五才 二年
- 修 給料面談
- △小使 五十一才 尋卒
- 給料面談
- △外交員 二十五才 高卒
- 給料面談

# 銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演  
山本英春 畫

第三百三十八回 徳川家に崇る村正

安心出来ぬ道伴れ

大久保左内は尾張屋の手代定吉より向島追剝の一件を聞き武藤金助を呼寄せて調べると金助は少しも包まらず白状をした、そこで溝口五左衛門の罪状明かになつたが何を云ふにも徳川の旗本直参の内よりさういふ不届者が現はれては徳川家の威光に拘はるから事を穩にすませたいと心得、五左衛門の妻の實家中野源五右衛門が己と別懇なのを幸ひ源五右衛門に旨を含めて五左衛門に切腹をさせ溝口の家も殘し徳川家の威光にも拘はらぬやうにと考へまして夫ゆる今に源五右衛門が五左衛門切腹の報告を持つて來るだらうと衣類まで着換て待つてゐる處へ、意外にも五左衛門が源五右衛門を切つて逐天をしたといふ知らせだから大きに驚き早速馬を馳せて溝口屋敷へ馳せ付ける、又中野方へも源五右衛門や並におさだが横死の知らせがあつたから俣源之助の驚き一方ならず之また溝口家へ馳せつけました大久保左内も源五右衛門の無慘な姿を見てア、氣の毒な事をした、自分があのや

場合は斬捨ても差支へないといふのでございませう、三七日の間は家に閉ぢ籠つて佛事供養を營み其の間は役人の手を以て敵の行衛を探して貰ひましたがさて何方へ逃げたものか更に五左衛門の手掛りがない、愈々三七日もすみませんでしたから親類縁者に後事を託して兎に角東海道をば上方さして上る事になりました、處が溝口五左衛門は東海、仲仙道は詮議が厳しいと考へたので甲州路へ逃れました、丁度甲州名代の笹子峠まで掛つて來た、峠の中程松の根方



着けて二人で睦じさうに何か話ながら休んでゐる、其の爺が腰から煙草入を取つてバクリ〜煙草を喫い始めた、夫を見ると五左衛門堪らなくつて  
五「コレ〜爺」  
爺「ハイお武家様結構なお天氣でございませう」  
五「誠に氣の毒だが拙者が今煙草を喫まうと思つた處、何處へ落した煙草入がない、其方も煙草を喫むから覺えがあらうが喫めないと思ふ時に煙草のない位情けない事はない、殊に其方が其處でゐるのを見ただの尙更辛抱が出來難い、どうだらう一ぶくのまゝして貰ひたいものだが」  
爺「ア、左様で誠に粗葉でございませうが宜しかつたら澤山召上つて下さいまし、サアおはるや之を持つて行つて差上な」  
と娘が煙草入と燧打道具とを五左衛門の前へ持つて來た  
五「之は〜忝ない、爺之はお前の娘か」  
爺「左様でございませう」  
五「却々綺麗だな」  
爺「御冗談で、女といふ名ばかりで」  
五「イヤさうでない、就中妙齡の娘は何となく様子のいいものだ、ドレ一服貰はう、シテ爺之から何處へ行くと」  
爺「ハイ身延へ参ります」  
五「ア、さうか、私も甲府まで参る者が斯うして口を利くのも何かの縁だ、一緒に参らう」  
爺「有難ふ存じます、どうかさう云ふ事に願ひます實は此の先で悪い雲助に出遇ひまして當惑致しました旦那様のやうなお方と御一緒に参ると大きに安心でございませう」  
と爺も娘も喜んだが餘り安心の出來る道連れではございません

行方を詮議する事になりまして、源五右衛門の俣源太郎は憎むべき五左衛門討取つて父の敵、姉の無念も晴さなければならんと早速敵討免状といふがさういふ物はない、詰り尋ね状、尋ね出して召捕る手に餘つた

へ腰を下して一ぶく吹はうと思ふと何處へ落したか煙草入れがない、ハテ困つたふと向ふれ見ると團扇太鼓を傍らへ置き年の頃五十四五にもならうと云ふ老人、二十歳ばかりの容貌はさほどでもないが焼らしいのを連れて之も白い手押脚絆を

緒に参らう」  
爺「有難ふ存じます、どうかさう云ふ事に願ひます實は此の先で悪い雲助に出遇ひまして當惑致しました旦那様のやうなお方と御一緒に参ると大きに安心でございませう」  
と爺も娘も喜んだが餘り安心の出來る道連れではございません

## 科病柳花 科兒小 科内 院醫 沼藤

町屋紺町平  
番七〇五話電

需應院入



阿部石炭商店

電話三七番

石炭  
コークス  
玉炭

平驛前

寫真材料一式販賣致シマス

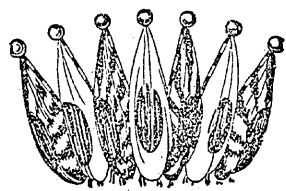
關内藥局  
電話四〇番

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

度量衡  
モノサシ  
ハカリ

寒暖計  
体温計

吸入用酸素  
純度99%



祝奉

下殿子太皇  
生誕御

軒提ケ

行列用

各種提灯は

スガノヤ提灯店へ

平四丁目 電九五

天壤無窮 萬歳萬々歳 瑞光燦として輝く  
皇太子殿下御誕生奉祝を二月の吉日を撰れ行はせらるこの  
佳き日の御使用の提灯